

38 手術が施行された患者における肺血栓塞栓症の発生率

指標の解説

- 周術期の肺血栓塞栓症は、重篤な場合には死に至ることがある。
- 予防への取り組みを行うことで肺血栓塞栓症の発症率が低ければ、周術期における患者管理の質が高いと言える。

分子:手術後の肺血栓塞栓症の発生数

分母:全身麻酔かつ肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した症例数

参考値:0.1%

分子:分母のうち、入院後発症疾患名に「肺塞栓症」が記載されている患者数

分母:肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した退院患者数(リスクレベルが「中」以上の手術は『肺血栓塞栓症/深部静脈血栓症(静脈血栓塞栓症)の予防ガイドライン』に準じて抽出)ただし、15歳未満は除外(引用元:社会福祉法人恩賜財団済生会「平成27年度 医療・福祉の質の確保・向上等に関する指標」250床以上病院の平均値)

